

## ●京都大学 地球環境学舎

## 「環境コミュニケーション・リテラシーの向上」の事例 &lt;人社系&gt;

## 具体的に何を実施したのか

本大学院が文理融合型である特色を活かすべく、必修科目としている長期インターン研修（各機関でのインターンシップやフィールドワーク）において共通の研究領域・フィールドを有する様々な分野の学生が参画するミニプロジェクトワークを編成し、分野横断の知見の理解、多様な立場の人々と情報と見解の共有、共同研究プロジェクトの遂行といった「環境コミュニケーション・リテラシー」の向上を図った。

## 実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと

- ・ 共通の研究領域・研究フィールドを有する様々な分野の学生が参画するよう配慮しながらミニプロジェクトを各年度6～8件程度立ち上げ、定期的な情報交換、英語でのミーティングの機会を大学、フィールド等で設けた。
- ・ 異なる分野の学生が共通のテーマに対して、分野横断の知見の理解や共同研究が実施できるように、担当教員やRAを務める博士課程学生が側面支援をしつつ、学生が主体となった課題設定、プロジェクトワークが実施できるように配慮した。

## どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか

- ・ 編成したミニプロジェクトワークにインターンシップを履修した留学生を含むすべての学生が参画し、課題の設定を含めたコースワークに取り組んだ。このことは、少なくとも共通のフィールドで活動する様々な分野を横断する知見の理解、およびコミュニケーション能力の習得に繋がったと考えている。
- ・ 間接的には海外フィールドワークを実施する学生数の増加、インターンシップ実施機関との共同研究の増加もみられている。

**●京都大学 地球環境学舎****「環境コミュニケーション・リテラシーの向上」の事例 <人社系>****具体的に何を実施したのか**

本プロジェクトにおいては、修士課程学生全員が長期インターン研修を必修科目として実施し、長期インターンシップやフィールドワークに従事している。特に、従来の委託型・応募認可型のインターンシップではなく、受入機関と指導教員、学生がプロジェクトを立案、実行するプロジェクト型のインターンシップ、もしくはフィールドワークを実施した。

**実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと**

実施にあたっては、必修科目として実施していることから、厳格な合否判定を実施すること、特に海外フィールドワーク中における安全管理、プログラムの内容が単なる就労体験ではなく、大学院や本教育プログラムの教育目標に準拠していることの確認を徹底することが重要であり、一括で管理を行う運営担当委員会を設けた。また、学生の保険加入や一部地域に渡航する際に必要となる予防接種等の安全教育、基礎科目におけるフィールドワーク体験など、事前準備も十分に行った。

**どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか**

修了生を対象としたアンケートにおいても、様々な分野の学生と交流を図りながらのプロジェクト型の長期インターンシップやフィールドワークの実施できたことに対する満足度が高いという結果が出ている。また、ミニプロジェクトワークにおけるコースワークにおいても、多様なインターンシップ実施機関で得られた成果がフィードバックされており、様々な分野・立場からの情報、知見を共有・理解する機会を学生に与えている。